## 【授業科目】一般検査学実習Ⅱ General Specimen Analytical Technolgy PracticeⅡ

担当教員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィス アワー	教職員への 授業公開		
大島 茂、小菅 優子		2年次 前 期	必 修	1	30	実 習	あり	巻末 掲載	可		
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	授業概要/一般検査学で学んだ尿以外の検体を扱った検査方法について実習を通して教授する。糞便検査、脳脊髄液検体に含まれる様々な成分を分析し、得られた検査データを解析できる能力を身に付けるため、実際にこれら検査方法を体験させ、操作の諸注意や検体の取り扱いについて講義する。寄生虫検査では光学顕微鏡を使用した虫卵検査で虫卵を証明する技術を体得できるよう教授する。実習形式で個人ワークやグループワークを通して学生が主体的に参加し、実習を展開する。課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートにコメントをつけて返却する。										
実務経験に関する 授業内容	臨床検査技師の臨床経験をもつ教員が、臨床検査技師として必要な医動物学の知識について、医動物学の虫 卵、幼虫などを用い、経験を交えながら指導、演習していく科目である。										
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。										
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①便の潜血反応の判定を説明できる。 ②寄生虫の虫卵、幼虫、成虫の形態を観察し特徴が説明できる。 ③模擬検体を用いて虫卵検査を実施し、その寄生虫が鑑別できる。										
時間外学習に必要 な学修内容および 学習上の助言	第1~15回事前学修:指定の教科書を事前に読み、解らない用語について調べておくこと(各60分)。 第1~15回事後学修:各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する(各60分)。 *その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある(各120分)。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。										
授業計画	第 3 回	イダンス :便検査1:1 :使検査1:1 :生虫検育査2: :生虫検育査3: :生虫検検査査3: :生虫検検査査3: :生虫検検査査3: :生虫検検査査3: :生虫検検査査3: :生虫・ :生虫 : : : : : : : : : :	潜虫虫蛛蠕虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫					大	全といいで		
評価方法 評価基準	成績は以下の評価配分によって総合的に判断する。 単元ごとのレポート 50%、 実技試験 50% 授業態度も加味する。										
教科書	医歯薬出版	查学講座医動物  「医動物学」	勿学第2版』 で使用したも	D	参考	<b>含書等</b>	なし	なし			
学生への メッセージ			組んでくださ    ポートを見て	-	— <b>—</b> ご手技が出来	— <b>—</b> そるように方	法、注意点	 (を記載してく	 【ださい。		